



北海道大学 鬼柳先生最終講義

原子力安全基盤機構
(元北海道大学 博士研究員)
後神 進史
gokou-shinji@jnes.go.jp

例年以上の寒波が押し寄せ、キャンパスが雪に埋もれてしまいそうな中、2013年1月11日(金)15時より、北海道大学工学部 B32 講義室にて、北海道大学 鬼柳善明教授の最終講義が行われました。会場の講義室には老若男女、学内/学外を問わず、道外からも多くの受講生が早くから参集し、80名を越す満員御礼状態で講義の開始を、今や遅しと待ちわびていました。そして、いよいよ講義の開始時刻が迫り、待ちに待った最終講義のスタートです。

『加速器中性子の物質材料研究と医療への展開』

静かになった講義室に、穏やかさの中にも力強さの籠ったいつもの鬼柳先生の声が響き渡り、これまでの研究の展開とその成果、研究人生そのものが語られて行きます。講義名にもある様に加速器と中性子源、それを使った物質材料研究の成果、更には医療分野への応用と今後の展望に至るまで、常に世界をリードして来た鬼柳先生ですが、長い間北海道大学にて教鞭を取り、たくさんの学生に研究指導をして来られた先生は、愛弟子達が残した研究成果をジグソーパズルのピースに例え、それら1つ1つが世界的な技術の進歩を支えてくれたとの感謝の気持ちをも籠めて話をされていたのが印象的でした。





写真1 最終講義の様子

同じく研究を生業とする我々が改めてその偉大な業績に感心したことは当然のことながら、学生当時は期限までに卒業論文を仕上げ、発表会での口撃をかわし、無事に卒業することで精一杯だったであろう卒業生の皆さんにとって感慨深い、また現在卒業研究に苦戦している現役学生諸氏にとっても研究意欲を掻き立てられる素晴らしい最終講義であったに違いありません。そして人それぞれの思いを抱き、鬼柳先生ご自身も様々な思いを巡らせたであろう最終講義も終わりを迎え、割れんばかりの拍手と研究室の学生さんからの花束贈呈をもって幕を下ろしました。



写真2 花束贈呈（最終講義終了後にて）

その後、舞台を札幌全日空ホテルへと変えて、少し早いですが退職記念祝賀会へと続きます。残念ながら最終講義を受講できなかった方々も数多く駆け付け、盛大な乾杯を皮切りに第二部がスタートです。歓談の中で各々が改めて鬼柳先生にお祝いの言葉を伝え、懐古の話に花を咲かせ、今後の研究展望を熱く語る中、研究室の学生さんによるイベントの時間が始まります。この記念すべき日に浴びるほど飲んで下さい、とばかりに用意された巨大な樽酒。浴びると言うよりも浸かれるほどの樽を前に満面の笑みを浮かべて鏡開きをする鬼柳先生。そして、あらゆる方面で（主に女子学生や女性職員に対してと聞こえたのは筆者の偏見かもしれませんが）絶大な人気を誇る鬼柳先生に対して、多少の嫉妬を感じつつも羨望と尊敬の念を籠めて同僚の先生方からの祝辞が伝えられ、社会に巣立って行った愛弟子達のスピーチへと続きます。



写真3 退官記念祝賀会での鏡開き

- A氏 『中性子源の黒鉛は先生の指示で自分が整形して…。』
B氏 『先生の指導で黒鉛を積み直したら白衣が黒衣に変わって…。』
C氏 『先生との一番の思い出は何度も黒鉛で積み木をしたことで…。』

※ 多少、筆者による誇張を含みます。

私にもスピーチの機会があれば、『私の頃はその黒鉛がすっかり放射化していて…。』と続けたかったところですが、これには鬼柳先生も観念したのか、ご自分のスピーチで、

K先生 『やっぱり黒鉛は重要で…。』

と、黒鉛の研究者が裸足で逃げ出すほどの、黒鉛＝鬼柳先生との方程式が証明されたところで、最後の括りとして、一緒に知恵を出し合った共同研究者の皆様や学生諸氏、事務仕事をサポート下さった方々、そして何よりもあらゆる面で人生のサポートを賜った御内儀に感謝の言葉を述べられて、閉会となりました。

鬼柳先生が様々な分野で残された偉業の数々は私が言うに及びませんが、世界的な研究を展開しながらも常に学生達に研究活動を通して自主自立の精神や、問題解決能力の育成を指導して来られ、科学技術発展への多大なる貢献のみならず、本当にたくさんの人生にエネルギーを与えて来たその裏には、並々ならぬご苦勞とご努力があったことと思います。

そんな鬼柳先生に皆が伝えたいであろう感謝の気持ちを最後に代弁させていただきます。

長い間、本当に
ありがとうございました。



写真4 集合写真（平成25年1月11日 於 札幌全日空ホテル）

(付録) 退職記念祝賀会の様子



